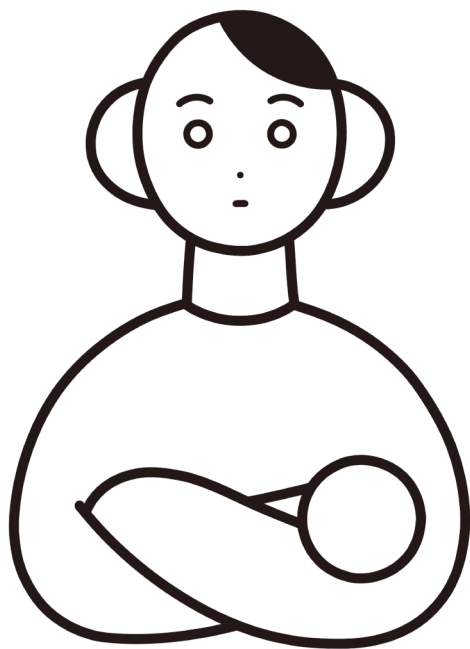


ハラスメント かも？

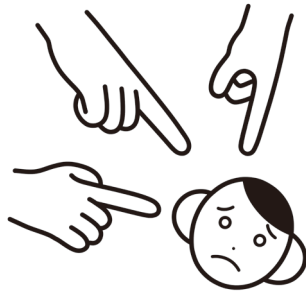


自分やまわりの人を守るために

ハラスメントって？

社会の様々な場面で問題化するハラスメントは、表現を学ぶ場や発表の場、表現活動を支える仕事の場で起きています。ハラスメントとは、一般的に次のような行為を指します。

学校や職場などでのいじめ・嫌がらせや、
人間としての尊厳を傷つけたり、脅かしたりすること。



なぜ？

ハラスメントは、先生と学生、先輩と後輩、雇人と労働者、顧客と接客者など、一方がより上にある関係において、起きやすくなっています。例えば、先生から恋愛感情を持たれた学生が「悪い成績をつけられたくない」という不安から拒否できない、仕事で接した客から無理難題を要求された末に誹謗中傷を受ける、先輩から勧められたお酒を飲まなければいけないと感じてしまった後輩、などのケースがあります。

背景には不平等な力関係が存在します。

加害者が無自覚にハラスメントを行っているケースや、被害者が自身の受けているハラスメントに気がついていないケースもあります。その結果として、状況は悪化してしまいます。できるかぎり早い段階でハラスメントを防ぐことはとても重要です。そのためにはまず、自分と相手がハラスメントの起きやすい力関係にあるかを見極める必要があります。

いつ・どこで？

学校で

教員と学生の上下関係においてハラスメントは起きやすく、無賃労働の依頼や性別・容姿などへの不要な言及、行き過ぎた批評や教育のネグレクト、などがあります。

飲み会で

お酒を飲み気が緩む場では、あらゆるハラスメントが起きやすくなります。お酒の強要や暴力的な発言はハラスメントであり、酔った状態で暴力やレイプといった犯罪に至るケースも複数報告されています。

発表の場で

芸術祭や卒業制作展といった発表の場で客によるストーカー被害にあう、画廊・代理業者などによる不当な請求や契約の提案をされる、などが報告されています。

仕事の場で

表現の活動を支える仕事の場で、客から無理難題を要求され謂れない非難に遭う(カスタマー・ハラスメント)、過剰な労働時間を要求される、などが報告されています。

インターネット・SNSで

ネットの匿名性を利用したストーキング行為や、批評や感想と称した誹謗中傷や攻撃的な書き込みが数多く報告されています。これらの行為はハラスメントです。

二次被害で

勇気を持ってハラスメントを公にした被害者が心無い中傷を受ける、逆訴訟を起こされる、などハラスメントの二次被害を受けるケースが多く起きています。

どうする？

学校で

教員や先輩、二人を避けたい相手からの特殊な時間帯や場所への呼び出しは断り、密室になることを避けましょう。ハラスメントを受けたと感じたら、できるだけ早く信頼できる人や窓口にご相談しましょう。

飲み会で

飲み会参加は同調圧力に屈せず、自分の自由意志で決めましょう。「先約が入っている、お酒が飲めない」などを理由に断る、信頼できる友人と参加する、こともできます。

発表の場で

名刺に個人情報を記載しない、客と二人にならない、イベントなど参加の際は契約書を事前作成する、などの対応が有効です。参加や販売条件の記載メールは保存しましょう。

仕事の場で

カスタマー・ハラスメントには冷静に対処し、治らない場合は複数人対応と上司への報告を行いましょう。電話やレコーダー、カメラなどの状況記録は有効な抑止力となります。また、不当な労働要求は必ず記録を取り、労働基準監督署や弁護士に相談しましょう。

インターネット・SNSで

ネットストーカーや誹謗中傷被害は、証拠となる部分のスクリーンショットを保存し、警察や弁護士に相談しましょう。個人情報の扱いに注意し、特に家や学校とその周囲の写真流出には気をつけましょう。SNSのブロック機能を使うことも大切です。

二次被害で

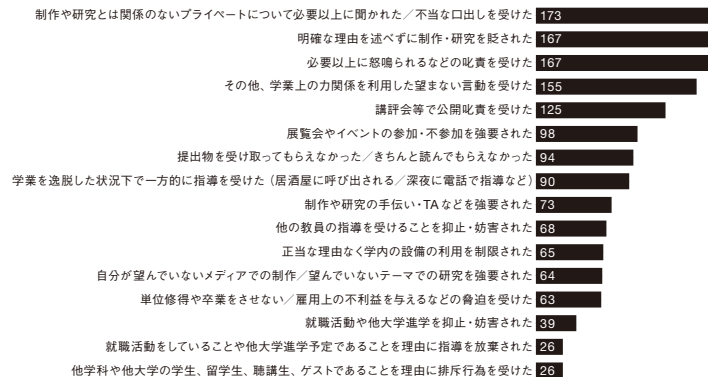
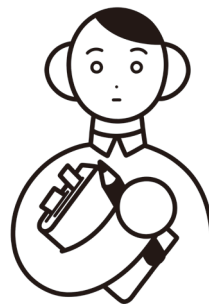
一人で全てを抱え込まずに、弁護士やハラスメント相談員といった専門家のサポートを受けることができます。

学生は受けやすい？

ハラスメントの実態調査や啓蒙を行う表現の現場調査団は、2020年に表現活動の場に関するアンケート調査※を実施。回答者1449名中610名が学生時代に表現活動に携わっていました。610名のうち376名が、学生時代にアカデミック・ハラスメントを受けたと回答しました。 ※スノーボールサンプリング調査による。詳細は表現の現場調査団のサイトにて(右ページ)

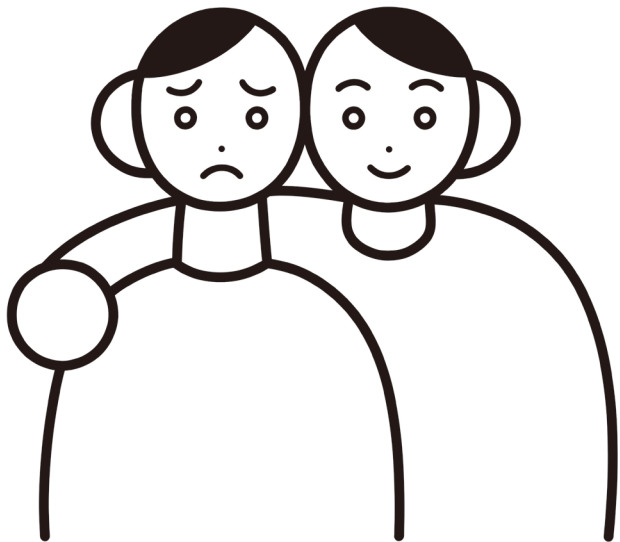
学生時代のアカデミック・ハラスメント経験

61.6% (10人につき約6人)



セクシュアル・ハラスメント

身体や性に関するもの



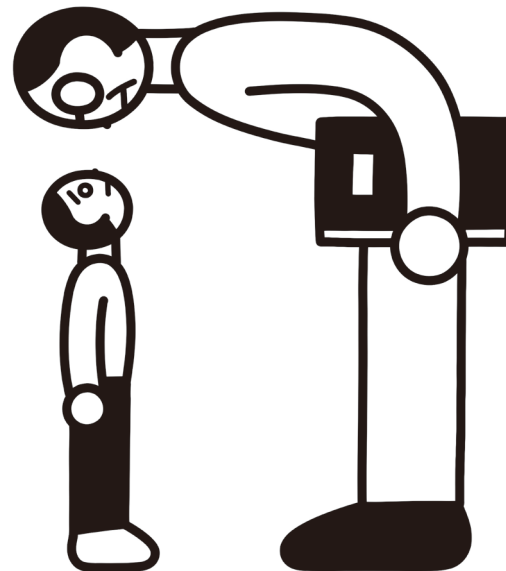
容姿や年齢についてあれこれ言われる、性に関する質問や卑猥な冗談を無理やり聞かされるなど、言葉による【セクハラ】を多くの人が経験しています。

さらに、望まない身体の接触や性行為の強要、ストーカーなど、犯罪に発展したケースも。制作や自身の成長のためと称して、裸になることを強要された例も報告されています。

例：「見た目で得している」と言われた／「恋人いるの?」「週に何回セックスしてるの?」と質問された／教授から性的関係を迫られた／助手から不要な電話、付きまといを受けた

アカデミック・ハラスメント

教育に関するもの



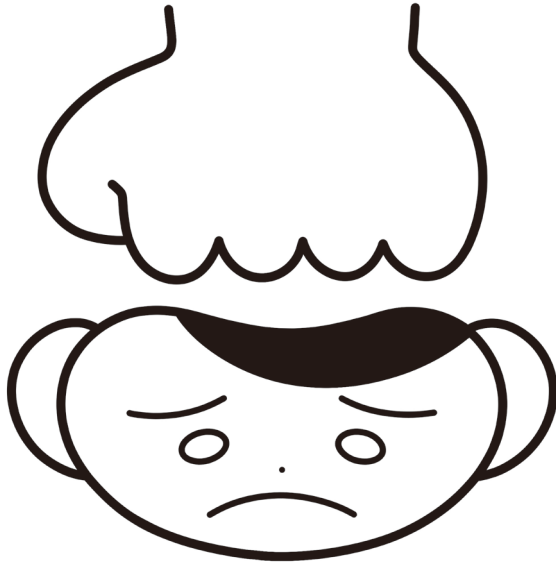
教員から指導範囲を超えた罵倒や口出し、関係のない要求をされたり、理由なく自身の活動をおとしめられたりする行為を【アカハラ】といます。

教員が指導を放棄する、学生の表現テーマやメディアを本人の意思に反して制限・強要する、教育の現場で必要な設備を使わせてもらえない、なども含まれます。

例：講評中に教員から人格否定されたり、理不尽に怒鳴られた／教員の個人的活動を無給で手伝われた／「卒業させないぞ」と言われた／「彫刻科で彫刻ではないものを作るな」と言われた

パワー・ハラスメント

仕事に関するもの

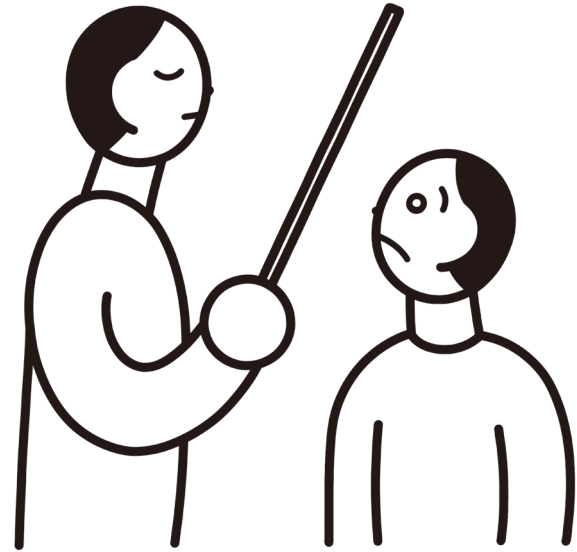


職場などで、権力や力関係を利用して行われるハラスメントを【パワハラ】といいます。暴言を吐かれる、無視される、暴力を振るわれる、金銭の未払いや超過労働など不当な扱いを受ける、過度のダメ出しや叱責を受けるといったケースが挙げられます。「この業界にいられなくしてやる」などと脅されるケースも報告されています。

例：上司や先輩から理不尽な暴言を吐かれた／「仕事ができない」といった噂を流された／
無給で残業を強要された／上司が部下を日常的に殴っている

レクチャリング・ハラスメント

広く指導に関するもの



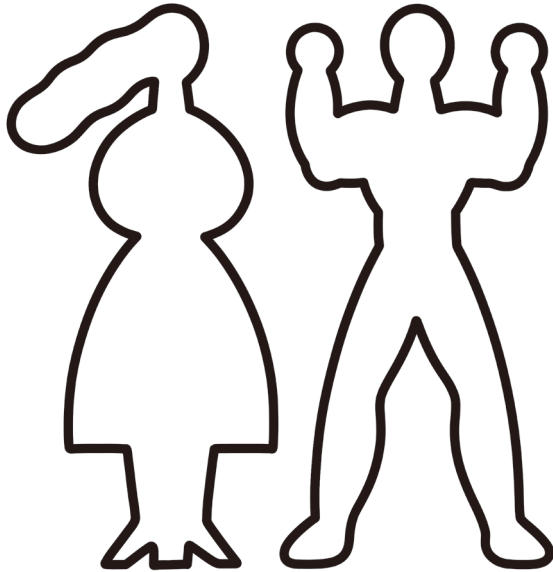
レッスンや予備校、サークル活動、稽古、ワークショップ、インターンなどの場で、教育や指導の名のもとに行われる嫌がらせを【レクハラ】といいます。

生徒が指導者から性的な嫌がらせをされる、暴言を吐かれる、マウンティングをされる、他者の目が及びづらい状況で洗脳的なアプローチを受けるなど様々なケースがあります。

例：大勢の前で「やめちまえ」「才能がない」などと罵倒された／終電まで一方的な指導を受けた／
レッスン中に指導者から胸やお尻を触られた

ジェンダー・ハラスメント

性のあり方に関するもの



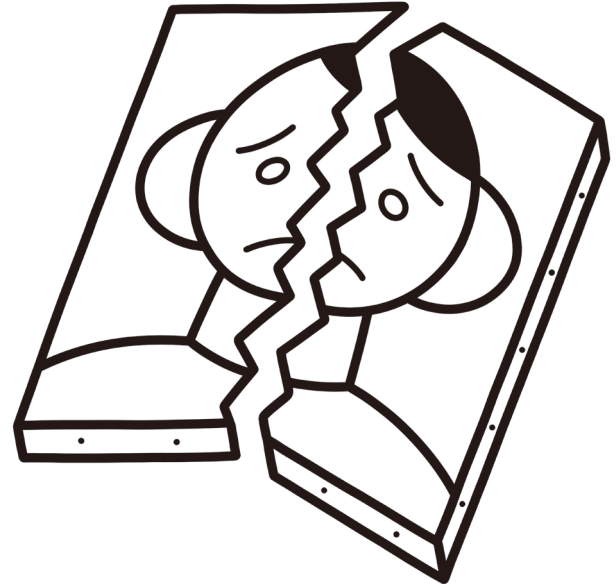
ジェンダーやセクシュアリティを理由に、不快な態度や不当な評価を受ける、仕事を始める前後の待遇で差別をされるなどの理不尽な扱いを受けることを【ジェンハラ】といいます。

「女／男なら○○で当然」など本人が望まない「女らしさ」や「男らしさ」を求められたり、性自認や性的指向の開示を求められたりすることも含まれます。

例：「女の作品は男の作品には勝てない」と言われた／「女の腐ったような男だ」と言われた／
自分のセクシュアリティを勝手に言いふらされた

テクスチュアル・ハラスメント

評価に関するもの



論評を装った、性を理由とする作品の価値の軽視や嫌がらせを【テクハラ】といいます。一見褒め言葉のように感じる「女なのにすごい」や「ゲイの人はセンスがある」といった言動も、じつは差別的な内容であり相手を貶めることになります。

例：「LGBTQだから評価されている」「彼氏の影響でしょ」と言われた



これらのハラスメントは複合的に起きる場合もあります。例えば、学生が教員による度重なる叱責から逃れるため、教員の性的要求に応じてしまうケースでは、レクハラ・アカハラ・セクハラが起きています。

どこに相談する？

ハラスメントにあったと感じたら、友人に話すだけでなく、ハラスメント相談窓口や弁護士に相談しましょう。いつ・どこで・どんな言動を受けたか、メモや録音などで記録に残しておきましょう。また、医療機関に行った場合には、必ず診断書を作成してもらいましょう。

いかなる場合も、ハラスメントの被害を受けた側に、
落ち度や責任はありません。



表現の現場調査団のサイト hyogen-genba.com では、行政やNPOなどが運営する相談窓口を記載しています。無料で相談できる窓口や弁護士組織も紹介しています。

表現の現場調査団

アーティストや表現活動に関わるメンバーを中心に、表現や学びの場におけるハラスメントやジェンダーバランスに関する実態調査、ウェブサイトにおけるハラスメントに関する情報提供、ハラスメントに関する周知および啓発等を行っています。本パンフレットは、2020年に実施したアンケート調査をもとにしています。



2023年3月1日 初版発行 2026年3月20日 第3版発行

企画制作・発行：表現の現場調査団

編集：杉原環樹、肥高菜実、福島夏子 デザイン：牧寿次郎 イラスト：unpis 印刷：グラフィック

配布：一般社団法人日本芸能従事者協会

〒107-0061 東京都港区北青山3-6-7 11階 Tel.03-5778-5224